昭和22年5月12日第三種郵便物認可　（日刊）大崎タイムス

東北学院大生ら温泉街に新風

熱帯植物園（鳴子温泉中山平）の再生へ

「にぎわいづくり」のプラン次々報告

「周辺への波及」に期待

最優秀賞 企画内容

旅館女将から高い評価受ける

東北学院大を中心とした仙台市内の大学生グループが、暴風被害で解体された大崎市鳴子温泉「ORAGA鳴子の熱帯植物園」の再生に取り組んでいる。観光スポットの復活とともに、学生たちが目指すのは「鳴子温泉郷のにぎわいづくり」。23日に同大土樋キャンパス＝仙台市青葉区＝であった成果報告会では、温泉街に新風を吹き込む活性化プランが次々と飛び出した。

東北学院大土樋キャンパスで成果報告会を開いた学生たち

県や県内各大学などの連携でつくる「復興大学」の事業。今年6月、熱帯植物園を所有する旅館「名湯秘湯うなぎ湯の宿琢琇」の要請に応じて東北学院大が発起人となり、仙台青葉学院短大＝仙台市若林区＝の有志も加えて再生プロジェクトをスタートさせた。

昨春、鳴子温泉地域一帯を襲った暴風で深刻な被害を受けた熱帯植物園。メンバーは手始めに施設を訪れ、ボランティアで瓦礫の撤去作業に励んだ。

学校の垣根を越えた8グループを構成するのは、いずれも企業経営やマーケティングを学ぶ学生たち。旅館関係者と話し合いながら施設跡地の再利用を考える中で、鳴子温泉郷全体が東日本大震災の風評被害で悩んでいることに気付いたという。

成果報告会で発表されたのは、ペットと飼い主が一緒に宿泊できるコテージ建設、温泉熱を生かした農園作りなど実に多彩。中には商圏分析やアンケート調査を元にした綿密なプランも。施設のある中山平地区から周辺への波及効果も期待できる構想の数々が、審査にタッチした同旅館女将・佐々木久子さんと教授陣をうならせた。

講評を行う「琢琇」の女将・佐々木さん

各グループが事前に熱帯植物園を訪問、ボランティア活動に励んだ（6月14日）

最優秀に選ばれたのは、東北学院大経営学部経営学科3年の伊藤輪さんを代表とする男女10人グループ。

「想いでつなぐ思い出プロジェクト」と題したプランニングは、熱帯植物園跡地に四季の花が咲く憩いの場を設け、そこで提供する旅館の新メニュー開発まで踏み込んだもの。女将の佐々木さんからも「幅広い年代の人に好まれそう」と高評価を受けた。

色麻町出身の伊藤さん。「古里に近い鳴子温泉郷は家族旅行の思い出がある素敵な場所。自分たちのアイデアを魅力アップに役立ててもらえたら」と期待していた。

プロジェクトはまだ始まったばかり。今後も熱帯植物園の再生を支援していくほか、学生たちの活動をまとめたパネル展示も実施予定。また、東日本大震災の被災地など他地域にも活動範囲を広げていく考えだ。